

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1078 2010年1月号



石鎚山“天狗岳”の樹氷



# 年頭挨拶

新年あ  
けまして  
おめでと  
うござい  
ます。  
皆様方  
なつたことと存じます。心か  
らお喜びを申し上げます。  
改めて昨年を振り返ってみ  
ると、やはり大きな変化の年  
であったように思われます。  
百年に一度の金融危機とも言



四国森林管理局長 篠田幸昌

におかれ  
ては、ご  
家族共々  
お健やか  
に新年を  
お迎えに  
した。  
われた一昨年の経済面での変  
動は、年をまたいで我が国の  
社会にも大きな影響を与えて  
きた訳ですが、昨年は我が国  
の中でも大きな動きがありま

何と言っても、昨年八月の  
衆議院選挙の結果新内閣が成  
立したことは、大きな変化と  
言って良いと思います。発足  
後の新内閣は選挙公約に沿っ  
て行政を展開してきました  
し、今後も基本的には同様に  
推移していくものと見込まれ  
ます。これまでの意志決定プ  
ロセスに慣れた我々として  
も、新たな意識で臨んでいか  
なければいけないこととなり  
ました。

透明化・効率化の一層の徹  
底にとどまらず、我々の行っ  
ている日々の事業が、どのよ  
うな意味を持ち、どのような  
効果が実現できるのか等の問  
題意識がこれまで以上に必要  
不可欠とされることになりま  
す。十分な留意が必要不可欠  
かと思えます。

新内閣における方針とし  
て、懸案であった国有林野事  
業の一部独立行政法人化の問  
題については見直しがなされ  
ることになります。これまで  
の方針に代わり、事業の一般  
会計化が検討されていくこと  
になります。この意味では、  
国有林野事業にとっても大き  
な節目になりうる課題であり  
ますし、高いレベルでの諸制

度間の整理が必要であること  
は明らかです。今後、検討  
が深められていくことになる  
ものと考えられますが、クリ  
アしていかなければいけない  
個々の課題もあり、今年から  
どのような経営形態で国有林  
が適正に管理されていくべき  
かが問われていくことになる  
のではないのでしょうか。

厳しい経済・社会環境の下  
で、今日の我が国森林・林業  
も例外ではないことは論を待  
ちません。  
住宅投資の低迷、円高の進  
行などの厳しい経済面での  
材料に加えて、住民の高齢  
化、経済活力の低下などは地  
方の方がより切実な面があり  
ます。昨年にはデフレの懸  
念が内閣の中からも指摘さ  
れ、生活、雇用等々への好ま  
しからざる影響が懸念されま  
す。厳しい予算事情を考えれ  
ば、単に事業費が確保・増額  
となる事態は想定しにくく、  
地域としてより一体的・効果  
的な事業執行が、国有林、民  
有林を含めて求められてくる  
のではないかと考えていま  
す。これまで機械的に実施し  
てきた面があったとすれば、  
今後の事業の進め方について

も十分に考えた上で実施して  
いくことが必要なのではない  
でしょうか。  
更に地球温暖化対策が新内  
閣の大きな課題となっている  
こともご案内のとおりです。  
新たな具体的枠組みの構築に  
ついては、諸国間の事情の差  
もあり予断を許さない面もあ  
りますが、我が国の森林・林  
業に対しても、大きなインパ  
クトを及ぼしうるものです。  
国有林野事業のみならず民有  
林関係についても活性化に繋  
げることができるよう期待し  
たいものです。

四国森林管理局としては、  
これらの情勢を踏まえて、地  
域に根ざした事業の推進に務  
め、四国の森林・林業・木材  
産業の活性化に繋がるよう本  
年も頑張っていくことにした  
かと思えます。

職員の方々の協力と関係者  
の引き続きのご支援を得られ  
れば幸いかと存じます。

最後になりますが、本年が  
皆様にとって幸多き明るい一  
年となりますことを心より祈  
念いたしまして、新年のご挨拶  
とさせていただきます。





原木市場の見学の様子



一月二二日、高知県本山町及び土佐町内において、「地域材発見ツアー」を実施しました。

このツアーは、再生産可能な資源である木材を、住宅や家具等に利用していくことは、森林の整備につながり、地球温暖化防止に貢献することを踏まえ、木材利用への理解の促進を図る取組として実施したものです。

ツアーには、中高年を中心とした一般参加者一三名と、七月

から行っている森林ボランティア活動入門講座（木材利用）の講座として、受講者八名、計二二名の参加があり、嶺北木材協同組合の協力をいただき、嶺北地域で生産された木材が住宅建築に至るまでのシステムを見学しました。

はじめに見学した嶺北木材市場では、木材の分別、スギの強度や丸太一本の値段、一本ごとの性質の違い等について説明がありました。参加者は、嶺北スギの強度が、強度実験結果から他の樹種より優れていることに感心するとともに、丸太一本の値段の安さに驚いていました。

続いて製材工場とプレカット工場を見学しました。参加者は、初めて見る施設の説明に熱心に耳を傾け、注文者ごとに名前を付けて分けられている板材・構造材に、近所の人の名前があるのを見つけると、今度話を聞きに行こうなどと話していました。

最後に、建築中のれいほくスケルトン住宅を見学しました。参加者は、原木から製材工場、プレカット工場を経て、実際に建築されている嶺北スギをふんだんに使った住宅に触れ、その素晴らしさを実感したようでした。特に、大黒柱の太さに驚

き、建築費用はどれ位かかるかなど、建築に向け具体的な質問がありました。

参加者の感想として、「森林から生産された木材が、どのよう加工され使われているのか大変勉強になった。有意義な一日でした。」との話がありました。



第五回高知もくもくランド

二〇〇九秋まつりが、高知県木材普及推進協会の主催で高知市仁井田の高知木材センターで一月一四・一五日の両日、二日間に渡り開催されました。

高知県産材の普及を目的に開催されたこの催しには、木造住宅の設計士、工務店、木材店、太陽光発電などエコ製品などを扱う様々な業種の企業等が五五小間出展しました。

また、住宅相談や地震対策、リフォーム相談など、木材を使った建築に関する総合的な相談会場にもなっています。

四国森林管理局も、木材の良さをPRするパネル展示と、間



オープニング丸太カット

伐材の板を糸ノコでくり抜いたクリスマス壁飾りの木工で参加しました。

オープン前から親子連れの行列が夕方まで続き、二日分の材料が一日目で底を突くほどの人気のため、急遽材料追加と、うれしい悲鳴でした。

各出展者の間でも、お互いの商品の情報交換なども見られ、異業種間のコミュニケーションの場としても効果があったようです。

また、耐震診断相談や悪徳リフォーム対策など木造建築に関するパネルディスプレイショーなどが開催され二日間のイベントを終えました。



一〇月〜十一月に掛けて高知市内、高知西高校と高知南高校の普通科の選択科目で「発達と保育」を講義する生徒を対象に森林環境教育と刃物の使い方の実践を兼ねた木工教室を行いました。

高知西高校は、今年で三回目、高知南高校は今年からの取り組みです。

この取組は、家庭科教師から、「最近便利になりすぎて、刃物を使って、削る、切るという基本的な作業が苦手な生徒が多いため、生徒たちに木工を通して、木に触れ楽しみながら、刃物の扱いにも慣れてもらいたい。」との依頼があり実施したものです。

両校とも、初めに、森林の働き、森林整備、木材利用の重要性などを学び、高知西高校では、今年、森林整備で切り出された竹を使い、「カナカナ蝉」、高知南高校は、刃物を多く使う「グマ・タヌキ置物」などに挑戦しました。

参加者の半数程はナイフなどで鉛筆を削ったり、鋸で木を



ノコギリに悪戦苦闘

切ったことがない者がいて、使い慣れていない刃物を扱うのは容易ではなかったようで、ノコギリで材料を切り離す作業では、「曲がる。」「真っ直ぐに切れない。」と悪戦苦闘でした。  
ノコギリを使った部品づくり作業を見ていると、時間内に作品が完成するのかと心配しましたが、それでも、参加者全員が時間内に作品を完成させました。高知西高校では、最後に、全員で、カナカナと季節はずれの蝉時雨。高知南高校では、作品を持ち寄り記念撮影で終了しました。  
両校の生徒達は、自然素材で出来るおもちゃを自分でつくり上げ、楽しみながら刃物に馴染んでくれて、私たちも大変満足でした。

くいしやま いいのやま  
「工石山」、「飯野山」で  
「森林・林業体験交流  
促進対策調査」の最終  
報告検討会を開催  
〔指導普及課〕

平成二一年度から、嶺北森林管理署管内の「工石山地域」及び香川森林管理事務所管内の「飯野山地域」を対象として実施している「森林・林業体験交流促進対策調査」の最終報告検討会を、工石山地域について、一二月四日に高知市工石山青少年の家において、飯野山地域については、一月三〇日に丸亀市野外活動センターにおいて開催しました。  
この調査は、比較的都市部に近く、体験活動の場としてふさわしい両地域において、安全で効率的な学習体験活動を行うための全体構想、学習・体験プログラム等の作成、取りまとめを行うものです。その取りまとめに当たっては、有識者や教育関係者、地域の活動団体等の方を委員とする検討会を開催し、その意見を反映させることとしており、今回は、一〇月に開催した中間報告検討会に引き続いて行ったものです。両地域ともに、はじめに、委託調査業務の受託



工石山地域の検討会の様子

者である(社)全国森林レクリエーション協会から、最終報告の内容について説明し、その後、委員から意見を伺いました。  
「工石山地域」の検討会では、「学習コースのそれぞれの学習場所を何を選んでもらうのか『ねらい』を明確にし、それに沿ったコース名にすべき。」「森林内だけでなく、早明浦ダムや木材利用のことを学ぶプログラムを組み合わせがとってもよい。」「自然林の生い立ちやサンショウウオの生態を説明した看板があったらよい。」「植樹や間伐体験だけではなく、子どもたちが森林に親しむという観点から、単に『遊ぶ』という空間があってもよいのではないか。」などといった意見が出されました。

技術開発課題に貴重な  
意見を第二回技術開発  
委員会を開催  
〔指導普及課〕

また、「飯野山地域」の検討会では、「具体的なプログラムを、先生や子どもたちに作成してもらおうという提案は賛成であるが、そのための素材を用意しておくことが必要。」「日帰り型だけではなく、宿泊型のプログラムがあってもよい。」「丸亀市には、他の体験活動の場として、丸亀城等があり、なぜ飯野山で行うのかという価値を改めて整理する必要がある。」「今回は、丸亀市側の学習コースの提案だけであったが、坂出市側からも登山できることから、同様に学習コースを検討すべき。」などといった意見が出されました。  
今回で本調査の検討会は終了となり、今後は報告書にまとめるとともに、それを踏まえた施設整備等を、平成二一年度から二二年度にかけて行うこととしています。

管理局技術開発委員会運営要領に基づき、森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家等の外部委員で構成されています。

今回は、平成二一年度技術開発中間報告の二課題(①立木密度の変化による林床植生等への影響調査、②ヒノキ天然更新地の更新技術の確立)、技術開発完了報告の一課題(天然林におけるモミ・ツガ等の天然更新技術の確立)、平成二二年度技術開発重点課題の一課題(二ホンジカ困いわなに関する研究について)について審議を行いました。

委員からは、①立木密度の変化による林床植生等への影響については、間伐率別(材積割合で三〇、四〇、五〇%伐採)の調査区を設定して調査開始から七年程度経過しており、調査区によつては、もう一度間伐を実施するなど、次の施業計画を検討してはどうか、②「ヒノキ天然更新地の更新技術及び天然林におけるモミ・ツガ等の天然更新技術については、稚樹が発生と消失を繰り返しており、稚樹の消失原因をさらに解明できたら、天然更新の指針となるのではないか、③二ホンジカ困いわなは、四国森林管理局が二ホンジカの困いわなの技術開発に着



手することは大変意義があり、今後、困いを含むニホンジカの捕獲についての情報の交換に努めて欲しいなどの意見が出されました。

今回頂きましたこれらの貴重な意見等を踏まえて、今後の技術開発に活かしていくこととしています。



技術開発委員会の様子

**『Xmas飾りづくり教室』  
森林ふれあい館で開催  
クリスマス飾り出来どい  
《指導普及課》**

二月二日、「Xmas飾りづくり教室」を、四国森林管理局森林ふれあい館において実施しました。

参加者は、公募により募集した子どもから大人までの二五名

です。

この木工教室は、昨年からのクリスマス前のこの時期実施しているもので、今年も、杉の間伐材（二三センチ四方の薄い板）を使って、誰でも作れる簡単な木工（壁掛け）教室を開催しました。

作業の内容は、予め用意した型紙を基に型を取り、糸ノコで切り抜いて絵付けをする作業です。参加者は、糸ノコの作業に「無理！」などと戸惑いながら作業を進めていましたが、なれると皆さん初めての体験とは思えない程上手に切り抜いていました。

最後の仕上げは、各人の感性で色づけ。ボンドの付けすぎで乾くのに時間がかかったり、細部にこだわった作品もあり、色づけ



クリスマス飾りづくり作成中



クリスマス飾り

らしい作品に仕上がりました。これで今年の木工教室はおしまい。来年も、またこの時期に、クリスマス用に併せて正月用の飾りも用意して実施したいと考えています。

に熱中し過ぎ、予定時間を少し超過しましたが、すば

**平成二〇年度四国の  
国有林野事業の実施状況**  
《企画調整室》

四国の国有林野事業の平成二〇年度の実施状況について取りまとめを行いましたので、概要をお知らせします。

（詳細については四国森林管理局ホームページをご覧下さい。http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/policy/hakusyo/jissai.jyokyou-shikoku.html）

**【公益的機能を重視した森林づくり】**

地球温暖化をはじめとする森林の持つ公益的機能の維持増進を図るため、更新、保育、間伐等の森林整備を進めました。

また、森林とのふれあいや森林環境教育等の推進を図ると

もに、森林資源の循環利用を図るための木材等の安定供給を実施しました。

○事例（特定流域総合治山事業の実施）

事業効果の早期発現と効率的な事業実施を図るため、国有林と民有林の治山事業実施箇所が近接している箇所、一体的な整備を行うっております。愛媛森林管理署においては上流の国有林で渓流の浸食防止・土砂流出抑制等のための谷止工を施工し、下流の民有林においては愛媛県が作業道の作設及び森林整備を実施しました。



整備対象地域（愛媛県今治市）

○事例（高知の森づくりに関する覚書の締結）

高知県と四国森林管理局の間で、民国が連携し、①水源の保全や国土の保全、生物多様性の保全等森林の持つ多面的機能の向上、②県産材の利用拡大による資源循環型社会の形成や地球温暖化の防止、③幅広い県民の参画による森林整備の推進に取り組み内容の覚書を締結しました。協定内容を具体化させるための取組として、森林整備協

定の締結協議も始まっています。

○事例（美しい森林づくりに関するシンポジウム）

地域の方々へ「美しい森林づくり」への理解や参加意欲を高めていただくことを目的に「美しい森林づくりに関するシンポジウム」を開催しました。

基調講演では、太田猛彦教授（東京農大）より美しい森林づくりの必要性について講演いただき、ともに、林業関係者、地方公共団体、企業等の方々と、森林整備の推進、企業による森林づくり活動、地域振興についてパネルディスカッションを行いました。



シンポジウムの様子

○事例（作業路作設技術研修会）

低コストで壊れない作業路作設技術の向上のため、研修会を実施しました。

参加者の利便性も考慮して管内を五ブロックに分けて開催





森の達人集の案内キャラクター  
左：こだま 右：このは

○事例（「森林の達人集」の作成と情報発信）  
自然の材料を用いた遊びや、森林をフィールドとした活動を得意とする名人達を「森林の達人（高知県版及び徳島県版）」としてデータベース化し、ホームページに掲載しました。今後



作業路作設の実演

し、作業路作設の実演指導を行うとともに、水処理対策、路側崩壊防止対策等について意見交換を行いました。



植樹の様子

も、順次、香川県版及び愛媛県版の「森林の達人集」を作成して、四国における「森林の達人」のネットワーク化を図り、効果的な森林環境教育を推進していくこととしています。  
○事例（四国銀行との連携による多様な森林づくり活動）  
高知県香美市の穴内川ダム湖畔にある立割不寒冬山国有林において、四国銀行と連携し、無花粉スギ、少花粉スギを植樹する森林づくり活動を行いました。この活動は、四国銀行が地方銀行有志と連携して取り組んでいる地域の森づくり（日本の森を守る地方銀行有志の会）を支援する取組として実施したものであり、約六〇名の行員とその家族が参加し、森林の働きや土壌の性質などを学んだ後、無花粉スギ、少花粉スギ一一本を植樹しました。

○事例（四国銀行との連携による多様な森林づくり活動）  
高知県香美市の穴内川ダム湖畔にある立割不寒冬山国有林において、四国銀行と連携し、無花粉スギ、少花粉スギを植樹する森林づくり活動を行いました。この活動は、四国銀行が地方銀行有志と連携して取り組んでいる地域の森づくり（日本の森を守る地方銀行有志の会）を支援する取組として実施したものであり、約六〇名の行員とその家族が参加し、森林の働きや土壌の性質などを学んだ後、無花粉スギ、少花粉スギ一一本を植樹しました。

○事例（四国の森林づくり子どもサミットの開催）  
子どもの視点からみた四国の森林づくりへの提言を情報発信することを目的に、「四国の森林づくり子どもサミット」を開催しました。  
サミットには、森林環境教育に積極的に取り組んでいる四国四県の小学校五校、中学校二校、高等学校一校が集まり、森林体験、学習活動の発表や森林環境教育の推進に向けた意見交換を行うとともに、参加者全員で四万十川での水生昆虫や魚の採取・観察などを行いました。

【「国民の森林」に向けた取組】  
開かれた「国民の森林」としての管理経営を一層推進するため、四国四県と連携して四国の森づくり活動に取り組むとともに、



四万十川での水生昆虫や魚の採取

自然再生等の地域に根ざした取組や、広く国民の皆さんの意見を聴く双方方向の情報発信による対話型の取組を実施しました。  
○事例（滑床山国有林のシカ被害地の植生回復）  
愛媛県、高知県の県境近くに位置する二本杭の山頂周辺では、シカの食害による植生の衰退・消失が深刻化していることから、有識者等からなる検討会を開催し、対策を検討しました。検討会の提言を受け、四万十川森林環境保全ふれあいセンターでは、裸地の著しい山頂周辺部に獣害防止ネットを設置するとともに、ボランティアとの連携・協働によりミヤコザサの移植を行いました。

○事例（皆伐跡地における針広混交林化等の取組）  
森林技術センターでは、森林の公益的機能の発揮や高木性広葉樹の確実な育成のため、針広混交林に向けた更新技術の開発を行っています。ヒノキ人工林の皆伐跡地に針葉樹と広葉樹の区画を群状に配置する試験地を設け、カシやナラなどの苗木の植え込みや、植栽本数を変えた生育状況等、皆伐跡地を針広混



ゴミ回収の様子

○事例（屋島クリーン大作戦）  
高松市の屋島国有林では、道路沿いへの不法投棄が後を絶たないことから、地域ぐるみで美化意識の向上と不法投棄防止のPRに努めております。香川森林管理事務所、関係自治体、地域住民及びボランティアが一体となって「クリーン大作戦」に取り組みしており、不法投棄を防止する環境作りや、美しい自然環境の維持に努めています。

○事例（皆伐跡地における針広混交林化等の取組）  
森林技術センターでは、森林の公益的機能の発揮や高木性広葉樹の確実な育成のため、針広混交林に向けた更新技術の開発を行っています。ヒノキ人工林の皆伐跡地に針葉樹と広葉樹の区画を群状に配置する試験地を設け、カシやナラなどの苗木の植え込みや、植栽本数を変えた生育状況等、皆伐跡地を針広混

交林にするためのデータを取得していく予定です。  
【国有林の管理】  
四国森林管理局では、不法投棄の防止や山火事を防ぐため、地方自治体や地域住民の方々と連携をとりながら管内の六五箇所の森林事務所を中心に国有林野の適切な管理に努めています。

## 平成二〇年度四国森林 管理局決算概要を公表

〈経理課〉

四国森林管理局の決算概要を公表しましたので、次のとおりお知らせします。

平成二〇年度における国有林野事業については、森林の公益的機能の維持増進、地球温暖化防止対策に積極的に取り組むとともに、財政の健全化に努めた結果、収入二四五億円に対し、支出は二四三億円と収支差はプラス二億円となりました。

### 一、収支状況

(一) 収入について

① 自己収入は、

ア 林産物等収入は、素材販売単価の下落等により前年度より一・五億円減少。

イ 林野等売却代金は、地価の下落及び優良物件の減少により前年度より〇・七億円減少。

② 一般会計より受入については、治山事業費等に要する経費の受入減等から、前年度より八・四億円減少。

③ 借入金については、平成一六年度以降、五年連続して新規借入金金はゼロ。

(二) 支出について

① 給与関係経費は、職員数の適正化等により、前年度より

一・三億円減少

② 森林保全・環境の整備にかかる経費は、地球温暖化防止等に向けて間伐等の森林整備を進めたことから前年度より九・六億円増加。林道災害復旧経費は、〇・四億円増加。

③ 償還金は、前年度より三・四億円減少し、支払利子は、借入金(借り換え)に伴う利率の低減により一・一億円の減少。

二、損益計算書の要旨  
経営費〇・五億円減少、売上高で一・七億円減少したこと等から損益計算書上の損失は前年度より一・二億円減少の二七・六億円となりました。

三、貸借対照表の要旨

(一) 資本は、資本剰余金七六・六億円の増により三、五六九億円。

(二) 負債は、長期借入金が四・二億円減少したものの未払金及び短期借入金等が二・六億円増加したことにより、前年度から一・七億円減少し四〇五億円。

このうち債務残高は長期借入金三〇八億円及び未払金等に含まれる短期借入金六八億円をあわせて三七六億円となり、前年度と同額となりました。

【参考】治山事業の概要

一、国有林野事業特別会計において山地災害の復旧・防止及

び保安林の整備等を目的として、四五・六億円の治山事業を実施しました。

(一) 国有林野内直轄治山事業では、国有林野内において溪間工、山腹工等の治山施設の整備及び保安林等の森林整備を実施。

(二) 民有林直轄事業では、治山事業を徳島県祖谷川地区外二箇所で、また、地すべり防止事業を徳島県祖谷川地区外四箇所で実施。

二、一般会計において、山地災害の緊急復旧を要する箇所で一億円の治山事業を実施しました。

## 各地の たより

### 木工クラフト



当センターでは、端材や間伐材の小枝などを活用したクラフト作りを通して、木の利用を考えた森林や自然環境への関心を高めてもらおうと、小・中学校で出前の木工教室を実施して



作業の状況

います。

一〇月八日、四万十市立川崎小学校五年生八名を対象に、動物の置物や携帯ストラップなどの作り方を指導しました。

始めに、森林の働きや、その森林からの贈り物である材料を使うことを説明してクラフト作りに取り組みました。

いざ始めると、「何を作ろうかな?」と悩んでいましたが、見本通りに挑戦する児童、全く独自の発想で作りは始める児童と様々でした。それでも約二時間後、個性豊かな作品が次々に完成すると、皆、とても満足そうな表情でした。

後日、「水が森林で守られていることが分かった」「木工体験は止められないほど楽しかった」などの児童の感想が寄せられ、森林や木材への関心・興味に繋がる教室となりました。

## 四万十川流域の国有林で 中・高生がフィールドワーク

〈ふれあいセンター〉

一月五日、津野町の船戸山国有林を訪れたのは、四万十町にある四万十高校と十川・昭和・大正・北ノ川の各中学校の生徒七〇名。四万十川流域の森林や環境を学習したいとの支援要請を受け、源流点や源水の地があり原生林が残る「不入山」と、高知県西部の代表的な人工林である「西の千本山」をフィールドとし、四万十森林管理署とふれあいセンター職員が説明にあたりました。

「西の千本山」では、スギ展示林の胸高直径を測定したり、両手を広げてその大きさを体感しました。一方、源流点から源水の地までは歩きづらく、生



「うわー大きい!」四万十高校外





間伐「ガンバレ！」 神奈川学園

奈川学園高校二年生三六名が、四万十川の支流、黒尊川源流域の「八面山」をフィールドにして、森と川の関係、自然や環境などについて学習しました。生徒達は、職員が歩道沿いの樹木の特徴やニホンジカの食害などを説明すると、熱心に聞き入りデジタルカメラに納めていました。午後は、黒尊山に移動して間伐を体験しました。間伐の重要

徒達は疲労困憊の様子でしたが、四万十川の始めの一滴を見てニッコリ。複層林施業や「郷土の森」、森林の土壌などについても理解を深めてもらいました。実施後、先生からは、「充実した研修となった」と好評をいただきました。

なお、当日の様子は、地元テレビ局のニュースで紹介されました。

一月七日には四万十市立中筋小学校二年生の親子を、一月四日には松野町立松野南小学校全校児童を対象に、種子の学習を実施しました。

始めに、自分で移動することができない植物が、様々な工夫をして種子を移動させていることや、草花だけではなく樹木にも種子があることなどを、本物の種子を使いながら説明しました。

その後、風を利用するラワンやニワウルシなどの種子の模型を作り、校庭や体育館で飛ばす実験をしました。特に、スチロールを使ったラワンの模型は

性については学習済みでしたが、作業は初めてで、職員から安全作業の心構えを教わり、早速、開始しました。ノコギリを手際よく扱う生徒、悪戦苦闘の生徒と様々でしたが、約一時間かけて全員が体験し、満足そうな表情でした。

今回のフィールドワークを通して、黒尊川源流域と同校の近くを流れる鶴見川との違いに気付くことに繋がったのではないかと考えます。

**「飛んだ飛んだ」**  
— 模型を使って種子の学習 —  
〈ふれあいセンター〉

大人気で、「ワー、飛んだ飛んだ」と大喜び。本物の種子の飛び方が連想できたようです。

学習後には、「風以外の方法で、種子が移動することが分かった」「模型のタネがクルクル回って飛び、ビックリした」などの発表がありました。

両日とも、模型を使ったことで、下級生にも理解しやすく楽しい学習になりました。

一月一五日、四万十市西土佐で産業祭が開催され、当センターも後援団体として参加しました。

会場となった西土佐中学校には、地域の特産品や児童の書画、



「飛んだー！」

**地域の産業祭でPR**  
〈ふれあいセンター〉

手工芸品などが多数出品されました。ふれあいセンターは、自然再生や森林環境教育などを中心に、パネル写真を展示して、日頃の活動をPRしました。来場者は、地元である黒尊山のシカ食害対策の取組や、森林教室の写真に知り合いの小・中学生を見つけると、熱心に見学していました。

このような地域行事への参加は、ふれあいセンターを知っていただく絶好の機会となりました。



パネル展示の様子

一月一八日、関係機関、有識者等の出席を得て、「第五回滑床山植生回復検討会」を開催しました。

**植生回復に願いを込めて**  
〈ふれあいセンター〉

今回は、昨年度の提言を受けて、一〇月にシカ防護ネットを設置した黒尊山国有林一林班のシカ食害の現状と、平成一九年三月、滑床山山頂（通称「三本杭」）及びその近くの通称「たるみ」で、シカ防護ネット内に移植したミヤコザサの生育状況等を確認しました。

山頂では、所長が、モニタリングを基に、「移植したササは、概ね順調に定着、成長している。なおかつ、移植した方形区から外に拡がりを見せている」と報告しました。出席者からは、「ササの定着が悪い箇所は、補植してはどうか」「土砂流出によりササの地下茎が動く」と定着しない。周囲の枯れ木などを活用した土砂止め措置が必要ではないか」「三本杭の下にもギャップがある。対策が必要



植生回復検討会の様子





植樹中

二月一日、四万十市立大用  
 中学校一年生四名を対象に、植  
 樹と間伐を指導しました。  
 これは、道徳の時間に、環境  
 活動家ワンガリ・マータイさん

### 中学生が林業体験

〈ふれあいセンター〉

ではないか」等、多くの意見が  
 出されました。  
 今後の取組としては、提言さ  
 れた内容について、有識者の意  
 見も聞きながら検討をしていく  
 こととしました。併せて、滑床  
 山では、モニタリングの継続と  
 ともに、ササ等の植生回復の可  
 能性が高い箇所への防護ネット  
 の設置を、黒尊山では、ムシロ  
 などをを使った土留め措置の試験  
 地を設けることとしました。

の植林活動を学習したことや、  
 一〇月の森林教室で、森林の働  
 きや間伐について学習したこと  
 から、学校近くの国有林に行  
 き、植樹と間伐を体験すること  
 になったものです。

始めに、ポット苗のカヤを植  
 樹しました。初めて鋏を持った  
 生徒もいましたが、「大きく育つ  
 て」の願いを込めて手際よく作  
 業が進み、シカ食害防止用のツ  
 リープロテクターも取り付けま  
 した。

間伐は、職員から安全作業の  
 注意点を聞き、一人一本ずつ体  
 験しました。始めは、鋸の扱い  
 に苦労している様子でしたが、  
 徐々にコツを掴み、無事作業を  
 終了しました。

生徒代表からは、「植樹と間  
 伐が体験でき、とても良かった」  
 との感想があり、一〇月の事前  
 学習と今回の体験学習を合わせ  
 た森林教室で、森林への関心・  
 理解が一層深まったようです。

### 間伐材を授業で利用

〈ふれあいセンター〉

二月八日、十和森林事務所  
 管内の市ノ又国有林で四万十町  
 立昭和中学校全校生徒三四名が  
 間伐体験を行いました。当日は、  
 四万十森林管理署職員とともに



間伐作業の様子

指導にあたりました。

四万十町は、林業が基幹産業  
 の一つでもあり、「幡多ヒノキ」  
 の優良産地で、積極的に良質材  
 を育てて利用しています。生徒  
 達が実際に地域産業を体験し、  
 間伐材を授業で活用することで  
 地域環境にも意識を高めていく  
 ことが目的です。

生徒達は鋸の取り扱いに苦労  
 していましたが、協力しながら  
 作業を進めていきました。倒し  
 たヒノキは四万十中央森林組合  
 の職員の方に造材してもらい、  
 全員でトラックに積み込みまし  
 た。今後、この材を半年程乾燥  
 させ、製材して授業の中で机等  
 を製作する予定です。

生徒達は、間伐を体験する  
 ことで地域産業の重要性や森  
 林の役割を再認識したと考え  
 ます。

### 職場体験学習

〈香川森林管理事務所〉

香川所では、一月一〇日  
 (火) から一二日(木) までの  
 三日間、高松市立紫雲中学校二  
 年生の職場体験学習を行いました  
 た。職場体験学習は、「仕事の  
 現場で働くことを通して、職業  
 について正しい知識を得るとと  
 もに、自分の趣味や適正と照ら  
 し合わせながら、自分の進路に  
 ついて深く考え、正しい職業観  
 を身に付けること」を目標とし  
 て行われるもので、今回は二名  
 を受け入れました。

一日目は、野外に出てコンパ  
 ス測量を行いました。中学生の  
 飲み込みは早く、測量後半にさ  
 しかかる頃には、少々足場の悪  
 い場所でもコンパスを据えられ  
 るようになっていました。事務  
 所に帰り測量結果を元に製図を  
 行いましたが、なれない作業に  
 四苦八苦していました。

二日目はあいにくの雨のた  
 め、午前中は所内で収穫調査の  
 取りまとめを行い、職員が調査  
 したデータを元に樹高曲線図を  
 画いて、材積を計算しました。  
 午後は当所が森林や林業に対  
 する普及啓発活動としてイベン  
 トや森林教室等でよく行うつる  
 かご編みを行ったり、竹でうぐ

いす笛を作ったりしました。  
 三日目は天候も回復したた  
 め、屋島国有林内で下草刈りを  
 行いました。使い慣れない大き  
 な鎌を使つての作業なので、大  
 変だったようです。その後木材  
 の搬出現場に行き、監督業務を  
 手伝いました。高性能林業機械  
 や架線集材の集材機など、見た  
 こともない珍しい機械に目を丸  
 くしていました。

当所の業務内容は、一般の  
 方々の目に留まることは少な  
 く、その点で中学生にも目新し  
 いものが多かったようです。こ  
 の職場体験学習を通して、森林  
 の大切さや、ほんの一部ではあ  
 りますが、国有林野での現場作  
 業の大変さ、安全に作業するこ  
 との重要性を体感できたのでは  
 ないかと思えます。仕事をす  
 ることは楽しいことばかりではな  
 く、危険なことやつらいことも  
 ありますが、この職場体験学習  
 を通して働くことの意義を少し  
 でも理解してもらえたものと思  
 います。



測量体験の様子

### つるで編むかご作り

〈香川森林管理事務所〉

一月一六日(月)、香川県立屋島少年自然の家で、古高松南コミュニティセンターが企画したつるかご編み教室が開催され、当所から講師を派遣しました。コミュニティセンターの方にお聞きしたところ、この講座は募集を途中で打ち切るほど人気があり、今回は主婦を中心とした約三〇名が参加されました。

最初に、香川森林管理事務所職員が、香川県内の国有林や屋島国有林の紹介と森林でつる植物が樹木に与える悪影響やつる植物の利用について説明をしました。香川県は全体として森林面積が少ないため、日頃から森林に接する機会も少ないのですが、屋島や栗林公園に近い峰山、飯野山などに代表されるように比較的身近な場所に国有林があることから、小学生を対象とした森林教室やこのような機会を通して国有林について理解を深めていただくように日頃から努めています。



つるかご作り

だけのつるかごを作ろうと意気込んでいました。

つるが集まったところで、よいよつるかご作りです。初心者の方は当所の職員の手を借りながら、ベテランの方は自分でつるを組み、編んでいきました。つるの色は、種類によって様々なので、それらをうまく組み合わせ、色のコントラストを生かしたかごを作っている人や、つるの曲がり具合を生かしてかごを編んでいる人もいました。途中、ある程度の力が必要なためかごの成形に苦労する人もいましたが、編み始めて二時間後には、ほとんどのかごが完成し、それぞれがとても個性的でした。当所では、このような機会を通じて森林や国有林に対する興味や理解を深めていただけるよう今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。

### 高校生が職場見学

〈高知中部森林管理署〉

一月一九日、当署に高知県立高岡高校の一年生二三名が職場見学を訪れました。

高岡高校では、生徒が自己実現できる基盤を養うことを目標に「キャリア教育」を実施しており、今回はその一環として、森林・林業について理解を深めることをテーマにした見学・研修を行うということで依頼を受けたものです。



森林・林業について勉強している様子

当日、署長のあいさつの後、世界の森林・日本の森林・四国の国有林などについて話を進めていきました。実際に業務で使用している施業実施計画図を手渡し、図面の見方を説明すると、生徒達は興味深げにうなずいて

いました。

最後に、「実際、どれくらい割合で森に行くのですか。」「山へ行くと疲れないですか。」などの質問があり、ざっくりばらんな雰囲気職場見学を終えました。生徒達は日頃あまり山には入る機会が無いようでしたが、今回の研修で、森林・林業に対して理解を深める一助となったことと思います。

### ふれあいの森で保育間伐

〈高知中部森林管理署〉

【一月一四日】

ヒカリ石国有林にある「物部川源流ふれあいの森」にて、「物部川二一世の紀森と水の会」が募ったボランティア二二名が保育間伐作業を行いました。

当日の作業開始時には小雨が降り、悪天候も心配されましたが、作業を進めると次第に晴れ間が見えるようになりまりました。

作業は、ベテラン参加者を中心に四〜五人の班に分かれ、ゆっくりと進められました。現地はツルがらみが多く、かかり木処理に時間をとられていました。

地拵え・植樹・シカ食害防護柵設置などのボランティア活動を経験している参加者からは、

「間伐が一番やりがいがある。」「何十年も育ってきた木を伐るのは申し訳ない気がする。」などの感想が聞かれました。今年度で協定期間は終了しますが、協定更新を行い、来年度も引き続き作業をしていただけることと、今後も森林を育てる活動に多くのボランティアが参加されることを願っています。

【一月二日】

西熊山国有林にあるふれあいの森、「共に考えようin物部の森」にて、NPO法人我が家を見直す会が募ったボランティア一三名が保育間伐作業を行いました。

当日は標高の高い尾根沿いには霧氷がみられるなど、大変寒い中での作業となりましたが、参加者達は使い慣れないながらも鋸や鉋を駆使し、一本二本と切り倒していくと、体もあたたまり着ていた上着を脱いでいました。



間伐作業の様子



今回は、五歳の最年少参加者をはじめ、インド出身の高知大留学生にも参加し、多彩な顔ぶれとなり、いつもに増して安全には十分注意しながらの作業となりました。そのため、間伐の実行面積は少なかったのですが、森林に親しみ、間伐の重要性を知っていただくには良い機会となったようです。

作業終了後、参加者全員で昼食をとり、業務課長からの今後の活動に期待する旨の挨拶で締めくくり、現地を後にしました。

### 遊々の森で巣箱がけ

〈高知中部森林管理署〉

一月二六日、ヒカリ石国有林内に設定している遊々の森で、香美市立大柄小学校五年生一四名が鳥の巣箱がけを行いました。大柄小学校は森林環境教育に熱心に取り組んでおられ、子どもたちは今年度すでに二回の森林学習をしており、この巣箱は今年六月に行った森林教室の時間を利用して作成したものです。紅葉の見頃は終わりを迎えていましたが、当日は好天に恵まれ、暖かい日差しの中で作業をすることができました。斜面が急なところもあり、子どもたちは転びそうになりながらも思い



巣箱がけした小学生

思いの木を見つけ、しっかりと巣箱をくくりつけました。現地では実際に、前年度の卒業生が巣箱をかけたところで、ヒナがかえっており、来春に向けて子どもたちは期待に胸をふくらませているようでした。

### 山岳救助における応急手当及び緊急連絡訓練の実施について

〈安芸森林管理署〉

一月三日、田野町ふれあいセンターにおいて、「山岳救助における応急手当及び緊急連絡訓練」の講習会を実施し、署長以下、安全推進委員や現場職員七五名が参加しました。

講習会では、奥地山岳における山林作業中の労働災害を想定し、災害発生時の緊急連絡及びヘリコプターによる救助時の基

本的対応事項等、また応急手当等の適切かつ迅速な対応が出来るよう中芸消防本部の協力を得て救急法講習を実施しました。はじめに、中芸消防本部から県東部地区は山岳地帯であり、緊急災害時の救助等に防災ヘリの出勤回数が増加してきていること、また、ヘリコプターによる救助時の連絡体制や被災箇所の特定方法、揚収する際の注意事項等について映像での説明を受け、ヘリコプターでの揚収には気象条件や被災箇所の地形状況など様々な条件が要求されることを再認識しました。

そのあと、応急処置として止血方法、骨折時の副木、毛布等での担架の作り方等をグループに分かれて実技指導を受けました。午後からは四グループに分かれて、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDによる心肺蘇生方法



講習会の様子

等を人形を使って実技指導を受けました。受講にあたってはそれぞれの職員が、緊急時に誰でも対応が出来るようにと交代で実技訓練を実施するなど、各自真剣に取り組んでいました。また、一月四日〜一日までの間に、各現場から衛星電話で緊急連絡模擬訓練を実施し、いざというときのため、適切な対応ができるようにしています。

### 合格おめでとう ございます

平成二一年度森林インストラクター資格試験の合格発表が一月二日にあり、四十森林管理署の森下嘉晴さんが合格しました。

### 第五回森林の俳句コンテスト入賞者決まる

〈総務課〉

今年度も六月一日〜九月二二日まで小中学生を対象に、森林・林業に関する俳句を募集したところ、四国四県から八十八校、二、〇二四句と多数の応募があり、選者二名による厳正な審査の結果、入選者が決まりました。

#### 〈小学生の部〉

##### 四国森林管理局長賞

吉野川市立牛島小学校 五年 北川 大輝  
ぼく植えたカラコキカエドあい  
たいな

##### 最優秀賞

大洲市立豊茂小学校 三年 久保 和己  
あぶらぜみよくとまる木はさくら  
の木

##### 優秀賞

徳島市立川内南小学校 三年 坂東 七穂  
谷川をながれる水に糸トシボ  
八幡浜市立松蔭小学校 四年 宇都宮あみ  
秋の山赤、黄のえのぐへついで  
鬼北町立愛治小学校 五年 高田 未来  
たきの音森のおくからきこえるよ

##### 秀逸

徳島市立津田小学校 二年 東出きようへい  
あせいっぱいみんなであえたこ  
ならの木  
吉野川市立牛島小学校 四年 桂 洋輔  
山ぎわのへん路小道はせみしぐれ  
吉野川市立牛島小学校 四年 下藤 京也  
若き日の母も登った登山道

丸亀市立郡家小学校  
六年 加藤 猛

夏の森思わずふかく深呼吸  
四国中央市立金生第二小学校  
二年 重見しようご

アカマツのさるのこしかけすわ  
れるかな  
四国中央市立金生第二小学校  
五年 斎藤 亜季

道ばたのどんぐりくりの実まだ  
あおい  
八幡浜市立松蔭小学校  
六年 宇都宮 さや

陸上部木蔭をさがし汗ぬぐう  
大洲市立豊茂小学校  
二年 菊地 生馬

ねむの木が 風にゆられて 花  
おとす  
宇和島市立立間小学校  
五年 宮本 雛

こもれ日がキラキラ光る夏の森  
宇和島市立高光小学校  
二年 菊池 萌花

しんりんのこんちゅうつかまえ  
すぐにがす  
徳島市立川内南小学校  
六年 新居田 涼

夏空に緑の眉山と入道雲  
徳島市立川内南小学校  
五年 大弥 静夏

青々と色あざやかに夏木だち  
吉野川市立牛島小学校  
六年 助道京一郎

ふと見ればのいちご実った森の道

吉野川市立牛島小学校  
四年 上田 朝日

森の中いつかトトロにあいたいな  
三豊市立河内小学校  
六年 大喜多大矩

スギの苗親子で植えしふるさと  
の山  
四国中央市立金生第二小学校  
五年 山原 瑠花

かまのほにしおからとんぼ一休み  
今治市立別宮小学校  
三年 田井 政晃

大きな木けつたらおちたカブト  
ムシ  
大洲市立長浜小学校  
五年 島田萌々香

君いくつ話しかけたよ杉の木に  
大洲市立豊茂小学校  
五年 寺田 豪

えだうちではしごにのぼった夏  
の空  
大洲市立予子林小学校  
二年 久保田駿汰

森の中おむすび二つピクニック  
八幡浜市立松蔭小学校  
六年 福富 彩乃

森の木が夕やけ空に染められた  
宇和島市立高光小学校  
六年 弓削 未結

森の中動物たちが遊んでる  
鬼北町立愛治小学校  
五年 横田 亜美

お姉ちゃんと野いちごとり合う  
森の中  
馬路村立魚梁瀬小学校  
六年 伊吹麻依花

山仕事どろ汗にじむ父の服  
馬路村立魚梁瀬小学校  
四年 五百蔵真帆

馬路村さつばりゆずのいいかおり  
馬路村さつばりゆずのいいかおり

(中学生の部)

四国森林管理局長賞

西予市立城川中学校  
二年 富永遼太郎

最優秀賞

香南市立野市中学校  
三年 小西 見歩

優秀賞

香南市立野市中学校  
三年 庄境 諒

山の中桜の花びら散っている  
大豊町立大豊町中学校  
二年 今井 夏紀

夜の森光り輝くオリオン座  
大豊町立大豊町中学校  
三年 佐々木由芽

秀逸

香南市立野市中学校  
三年 久万 朋香

学校の窓から見える青い山  
香南市立野市中学校  
三年 片岡 敦

三年 西村 映美

風薫る山の麓の一軒家  
大豊町立大豊町中学校  
三年 澤 篤礼

日が沈み山を飛び交う赤とんぼ  
大豊町立大豊町中学校  
二年 上村 沙紀

森林の隙間に通す月明かり  
大豊町立大豊町中学校  
二年 白石 昌耶

残雪の山に響くよ鳥の声  
本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校  
三年 田岡 竜成

妹がせみといっしょにいない  
本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校  
三年 大石すみれ

宿題を終わらせるよとせみが鳴く  
本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校  
二年 泉 円

木漏れ日の緑陰の下友を待つ  
馬路村立馬路中学校  
三年 東谷 柚季

駆けのぼり秋の山頂ダム遙か  
八幡浜市立真穴中学校  
三年 薬師神悦子

佳作

木イチゴを集めて母がジャムつ  
くる  
香南市立野市中学校  
三年 結城 真実

滝の音ひびきたるよ山の中  
香南市立野市中学校  
三年 坂口 泰樹

三年 小松 若葉

山の色だんだん染まる紅葉に  
香南市立野市中学校  
三年 仙頭 まどか

山行けばうぐいすの声響いてる  
香南市立野市中学校  
三年 西本 美咲

山仕事寒い時には大変だ  
香南市立野市中学校  
三年 仙頭 夏輝

山笑う熊も出て来い深呼吸  
香南市立野市中学校  
三年 武市 優也

オノの音緑の森にひびきけり  
香南市立野市中学校  
三年 福本 裕大

あたたかな日差しをあびる森の昼  
香南市立野市中学校  
三年 水田 和由

霧深く神秘漂う森の中  
大豊町立大豊町中学校  
三年 森下 卓也

雲海に顔をのぞかず山高し  
大豊町立大豊町中学校  
二年 吉村 友里

佳作

ふと見ると木々の間に縹雲  
本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校  
三年 上舞 弥代

おいしげる山々飛び交う甲虫  
本山町土佐町中学校組合立嶺北中学校  
二年 右城 圭

花粉飛ぶ山道登りわらびとり  
高知市立青柳中学校  
二年 細川 葵